

出題分析		
試験時間 60分	配点 50点	大問数 5題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問は昨年から1題減少して5題となり、小問数は3問減って41問となった。〔I〕に古代オリエント史が来るのは例年通りで、最後の小問では昨年と同様に西洋美術作品が掲載された。全体的に見ると出題された時代は満遍なく散っている一方で、地域は昨年同様にヨーロッパと東アジアに偏った。難易度は早稲田大の中では易しい部類だが、本年は正誤判定の難度が高い問題が散見され、昨年比で難化と判断した。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	古代オリエント史	定番の古代オリエント史としては易しいが、リード文・設問文をよく読む必要があった。	やや易
II	任侠の中国史	設問3, 最も古い時代の人物を選べば正答になる。設問6, Hには「劉備」が入るが、魏の初代皇帝が問われている点に注意。設問7, 古い順で「三番目にくるもの」を選ぶ問題。大まかな時代の推移を捉えたい。設問9, 日中平和友好条約締結は華国鋒政権時代のため、想定解はアと思われる。しかし、当時の鄧小平は副首相として締結に関与し、条約批准書の交換のため来日もしているため、アは「適切」とも判断できる。また、エについても、大躍進を失敗した人物が不明確であり、これを鄧小平と読めば誤文とみなせる。設問11, リード文から、「任侠待望論」が変法改革の時代になされた点を見逃さないように。	標準
III	中近世イベリア半島史	設問1, アブド=アッラフマーン3世がファティマ朝に対抗してカリフを称したことを想起したい。設問3は難問。設問6, ラス=カサスはドミニコ会修道士で、イエズス会設立以前の人物である。設問7も細かいが、消去法で解きたい。フェリペ2世は16世紀末に死去し、『ドン=キホーテ』の刊行は17世紀初頭である。	やや難

設問別講評			
IV	ヨーロッパの科学・文化	設問 4, 模範議会の招集は 1295 年である。設問 7, 一見細かいが, 帰納法とイギリス経験論のつながりを理解していれば解答できる。設問 8, 盲点になりやすい 19 世紀文化史だが, ランケの業績は基本事項。設問 11, ブーランジェ事件とドレフュス事件の順序は覚えておこう。設問 13-I, 「新絶対主義」体制が成立したのはオーストリアである。エ, 穀物法の廃止は 1846 年で, 1848 年革命より前である。	標準
V	ラヴェンナのモザイク画とルネサンス絵画	設問 2, ホノリウスは細かいが, 消去法で解答したい。設問 4, エはドイツのホルバインの「エラスムス像」。アはラファエロ, イはダ=ヴィンチ, ウはジョットの作品である。設問 5, 古典主義絵画では古代ギリシアやローマ美術から題材がとられた。	標準

合格のための学習法

文学部の世界史は出題傾向に特徴があるので, その対策を怠ってはならない。例えば, 絵画など美術史は西洋・東洋を問わず必須なので, 資料集を活用した十分な対策が必要であろう。また先史時代や古代オリエント, 古代ギリシア・ローマ史も出題頻度が高く, 十分な対策が望まれる。正誤判定対策として, 早稲田大の他学部の問題も積極的に解いておこう。